

ゴールキーパーのパンチングにより生じた舟状骨骨折に 合併した小菱形骨骨折の1例

○山本 哲也 (やまもと てつや)(MD), 伊藤 研二郎 (MD), 松島 真司 (MD), 伊賀 誠 (MD),
山崎 善功 (MD), 吉田 和也 (MD)

明石医療センター 整形外科

症例は, 19歳男性. サッカーのゴールキーパー中, ボールをパンチングした際に受傷. 前医にて舟状骨骨折を指摘され当科紹介受診. 示指基部にも圧痛を認めCTにて小菱形骨骨折が判明した. 舟状骨骨折・小菱形骨骨折に対して経皮的骨接合術を施行した.

舟状骨骨折は手根骨骨折の68.2%を占めると言われているが, 小菱形骨骨折は稀な骨折であり0.4%と言われている. その理由として, 小菱形骨は手根靭帯により固定されているため運動性に富んでいない骨であること・手根骨の中で小型の骨でありレントゲンでは診断が困難であり見逃されている可能性が挙げられる.

舟状骨骨折の受傷機転は, 転倒時の手関節背屈強制が多いが, パンチング動作による受傷の報告も散見される. パンチング動作により第2中手骨に軸圧がかかり小菱形骨・舟状骨の順に剪断力が働くことで骨折が生じるものと考えられる.

今回, パンチング動作により生じた舟状骨骨折に合併した小菱形骨骨折を経験した. 小菱形骨骨折は頻度が低い骨折であるが, パンチング動作による舟状骨骨折にはその発症メカニズムを考慮すると小菱形骨骨折を合併する可能性があると考えられた. パンチング動作による舟状骨骨折を診断した際には小菱形骨骨折についても念頭において診察する必要があると考える.